

群馬県における職域での肝炎ウイルス検査受検及び受療促進の取り組み

研究分担者：柿崎 暁 国立病院機構高崎総合医療センター 臨床研究部 部長
研究協力者：戸島 洋貴 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター 病院講師

研究要旨：就労世代の治療促進のため、職域、とくに加入者数の多い全国健康保険協会（協会けんぽ）を対象に肝炎検査受検・受療の啓発活動を行う。令和元年度に、研究班版簡易リーフレットによる受診勧奨を群馬支部において水平展開し、簡易版導入施設は、肝炎検査数が前年度比較で5.23倍、受検率が4.93倍に増加し、非導入施設（受検数0.71倍、受検率0.68倍）と比較し、有意に肝炎検査受検数・受検率が増加することを示した。令和2年度から、新たに協会けんぽ版の簡易リーフレットが導入されたため、研究班版簡易リーフレットの継続使用を含めた簡易リーフレットの効果検証を行っており、本年度も継続した。令和2年度集計では、肝炎検査数・受検率は低下したが、研究班版リーフレットを継続使用した施設の受検数、受検率は、他の施設に比べて減少幅が低かった。簡易版を継続使用している施設の方が、新規導入施設よりも受検率が高かった。令和2年度はコロナ禍の影響もあり、データ収集期間の延長などを含め、結果の解釈には検討が必要と考えられる。

A. 研究目的

群馬県内の職域における肝炎ウイルス検査受検率と受療率向上を目的とする。

C型慢性肝炎患者は自覚症状が乏しいことから、慢性肝炎から肝硬変・肝癌への進行を阻止するためには、肝炎ウイルス検査を受け、自身の感染を知り、適切な治療を受けることが重要である。直接作用型抗ウイルス剤（DAA）治療により、通院の負担が軽減され、就労世代の患者の治療アクセスも各段に向上し、就労世代の治療も促進された。しかし、一方で、未だ肝炎検診を受けていないため自身の感染を知らないキャリアや、感染を知っていても治療を中断し根治に至っていない患者も多く存在する。

本研究では、就労世代の治療促進のため、職域の肝炎ウイルス検査の受検促進

と検査陽性者の適切な治療導入促進を目的とした。加入者数の多い全国健康保険協会（協会けんぽ）を対象に肝炎検査受検・受療の啓発活動を行った。

B. 研究方法

職域での肝炎ウイルス検査受検促進のため、以下の項目について啓発活動を行った。

- （1） 全国健康保険協会（協会けんぽ）でのウイルス検査受検促進
簡易リーフレットによる受検勧奨
- （2） 職域への出張型肝臓病教室
- （3） 職域の肝炎医療コーディネーター養成

（倫理面への配慮）

個人情報に配慮し、院内倫理委員会の承認を得た。

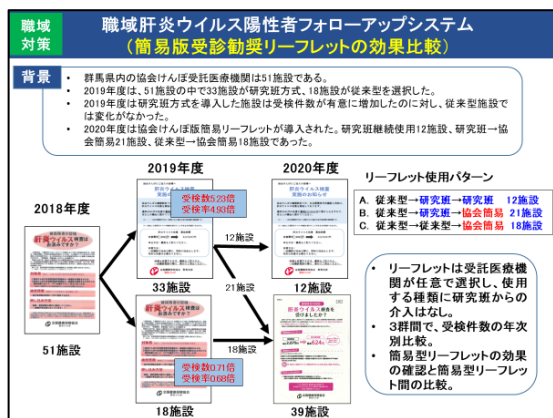
C. 研究結果

(1) 協会けんぽでのウイルス検査受検促進

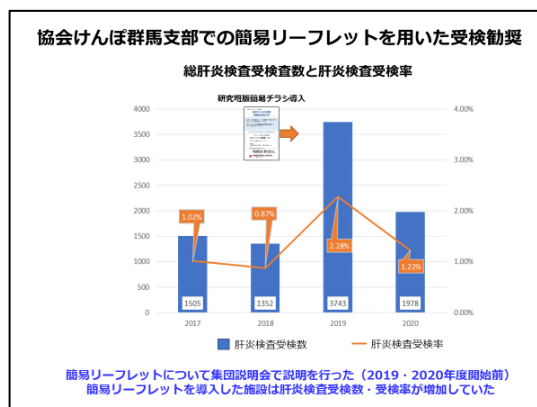
群馬県内の協会けんぽ受託医療機関は51施設である。令和元年度は、51施設の中で33施設が研究班方式、18施設が従来型を使用した。研究班方式を導入した33施設では、受検数5.23倍（受検率4.93倍）と増加したに対し、非導入施設では受検数0.71倍（受検率0.68倍）であった。



令和2年度は、協会けんぽ版簡易リーフレットが新たに導入されたため、研究班版を継続使用した施設は12施設（A群）、協会けんぽ版使用は39施設であった。協会けんぽ版を使用した施設は、研究班版からの切り替え21施設（B群）、協会けんぽ従来型から簡易版への変更施設18施設（C群）であった。

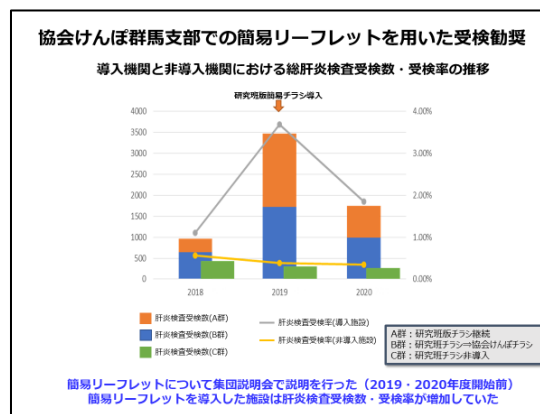


令和2年度の協会けんぽ健診受検数は概ね横ばいであった（161,600件、令和元年度164,492件）。肝炎検査受検数は約4割強減少し（3743→1978件）、受検率は1.2%（令和元年度2.3%）であった。簡易型チラシ導入前（平成30年度）よりは高かったが、検査数、受検率ともに減少した。



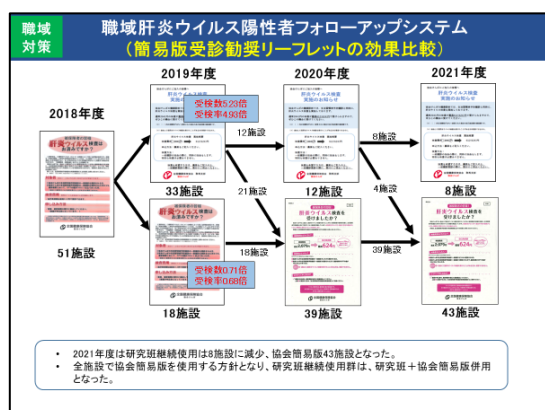
簡易リーフレット別、導入経過別の検討では、研究班版継続使用群の肝炎検査受検率は、他の群よりも有意に高かった。

協会けんぽ版を使用した施設間では、令和元年度から簡易型を導入している施設の方が、令和2年度に初めて導入した施設に比べ有意に受検率が高かった。令和2年度に初めて協会けんぽ版簡易リーフレットを導入した施設は、簡易リーフレット導入後も受検数・受検率は増加していなかった。令和2年度は、コロナ禍



のため、全体説明会での簡易リーフレット使用説明が出来なかった。簡易リーフレットの導入に加え、適切な使用方法の指導も重要である可能性が示唆された。研究班版を継続した群は、他の群と比較して受検率が高かったが、各群の選択は、施設の任意のため、施設の意識の違いなどの選択バイアスがある点も考慮する必要があると考えられた。

令和3年度は、全施設で協会けんぽ簡易版を使用する方針となり、研究班継続使用群は、研究班+協会簡易版併用となった。令和3年度の検査数・受検数に関しては、次年度に集計する。



(2) 職域への出張型肝臓病教室

職域の肝炎検査に対する意識を高めるために、県内企業に出向き、出張型肝臓病教室を行っていたが、今年度は令和2年度と同様に、コロナ禍のため現地開催での依頼はなかった。そのため、肝臓病教室をWEB開催とし、職域へ視聴を呼び掛けた。

(3) 職域の肝炎医療コーディネーター

肝炎医療コーディネーター研修会への参加を、企業の保健管理部門に所属する看護師、保健師へ呼びかけ、職域の肝炎

医療コーディネーターを養成し、職域での発活動の必要性を説明した。令和3年度は、肝炎医療コーディネーターを88名養成した。内訳は、医療機関44名（病院29名、クリニック15名）、自治体30名、企業関連11名、患者会2名であった。職域において11名の肝炎医療コーディネーターを養成した。企業以外の肝炎医療コーディネーターにも、職域における受診勧奨の必要性を呼び掛けた。

D. 考察

令和2年度の肝炎検査数・受検率は、令和元年度と比較し減少したが、研究班版の簡易型リーフレットを継続使用した施設は、減少幅が低かった。協会けんぽ版でも、令和元年度から簡易リーフレットを導入している施設は、令和2年度新規導入施設に比べ有意に高く、簡易リーフレットの導入に加え、適切な使用方法の指導も重要である可能性が示唆された。

E. 結論

県内で職域での肝炎ウイルス検査受検・受療促進のための取り組みを行った。研究班版簡易型リーフレットの継続使用は有用である可能性が示唆された。

F. 政策提言および実務活動

研究班活動に加えて、群馬県肝炎対策協議会委員として、群馬県保健予防課、肝炎対策協議会、肝疾患診療連携拠点病院と連携し、群馬県内の肝炎に関する総合的な施策の推進活動及び肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 榎本 大、日高 勲、井上泰輔、磯田 広史、井出達也、荒生祥尚、内田義人、井上貴子、池上 正、柿崎 暁、瀬戸山 博子、島上哲朗、小川浩司、末次 淳、井上 淳、遠藤美月、永田賢治、是永 匡紹. 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーター養成の現状. 肝臓 62巻2号 96-98. 2021.

2. 学会発表

1. ○戸島洋貴, 下山田めぐみ, 櫻井昇幸, 町田貴志, 堀口昇男, 柿崎 暁, 阿部毅彦, 高木 均, 群馬県肝炎対策協議会. 当県における肝炎医療行政の取り組み. 肝臓. 62巻Suppl(1). A233. 2021.

2. 三上有香, 戸島洋貴, 中島有香, 柿崎 暁. 肝炎医療コーディネーターの状況と眼科病棟コーディネーター養成の試み. 日本消化器病学会雑誌. 118 巻. A266. 2021.

3. その他

啓発資材

群馬版簡易型受検申込書

啓発活動

1. 柿崎 暁, 戸島 洋貴: 市民公開講座企画
肝がん撲滅運動市民公開講座群馬県
開催 2021 司会: 柿崎 暁
戸島 洋貴「肝臓病のお得な助成制度」
令和3年7月12日~30日
主催: 日本肝臓学会 WEB 開催

2. 戸島 洋貴: 肝臓病教室

戸島 洋貴「ウイルス性肝炎の治療と治療後の通院の必要性について」
令和3年2月22日~3月22日
主催: 群馬大学肝疾患センター
WEB 開催

3. 柿崎 暁, 戸島 洋貴: 群馬肝炎医療コーディネーター養成研修会企画
戸島 洋貴「肝臓の検査について」
戸島 洋貴「肝臓病の食事・日常生活の注意点」

柿崎 暁「ウイルス性肝炎・肝硬変・肝臓病について」

柿崎 暁「肝臓病に対する群馬県の助成制度について」

令和3年10月13日~11月17日

主催: 群馬県・群馬大学肝疾患センター WEB 開催

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし